

# 一般社団法人日本太陽エネルギー学会 第10回定時社員総会報告

一般社団法人日本太陽エネルギー学会第10回定時社員総会は5月26日（火）午後2時30分から東京都立大学秋葉原サテライトキャンパスで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のためWeb会議で開催された。

式次第は次の通り。

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議事

第1号～第3号議案

2019年（令和1年）度学会各賞受賞者発表

4. 閉会の辞

定款第15条により須永修通会長が議長として開会を宣言した。続いて総会開催資格について光田憲朗副会長より個人会員ならびに団体会員の正会員650個中、出席者7個、総会議長への委任311個、合計318個であり定款17条に定める正会員の1/3（217個）を超え、総会は成立した旨の報告がされた。

続いて書記、議事録署名人の選出に移った。議長より、書記に光田憲朗副会長、議事録署名人に秋澤淳副会長にそれぞれお願いしたい旨の提案があり、拍手多数により選任された。続いて第1号議案から

第3号議案の審議に入った。第1号議案「2019年度事業報告並びに決算報告に関する件」について秋澤淳副会長より説明を受けた後、会計監査報告に移り、監事を代表して夏目貴史監事より「会計は適正に処理されている」との監査報告を受けた。議長が議案の誤記訂正を条件に賛否を問い、出席者全員の賛成により原案通り承認された。

第2号議案「2020年度事業計画並びに予算に関する件」について秋澤淳副会長より説明があり賛否を問い、出席者全員の賛成により承認された。

続いて第3号議案「法人第6期役員選出の件」について議長より選挙結果の当選理事28名、および会長推薦理事3名、計31名の理事候補者、2名の監事候補者についての説明があり質疑に入った。議長より承認可否を問い、全員の賛成をもって33名の役員が承認された。

続いて秋澤淳表彰委員会委員長より学会賞選考結果について報告があり、総会は午後3時に閉会した。

総会に引き続き予定されていた特別講演（カモイケデザインラボ 矢野一志氏）および学会各賞の表彰式は中止となった。

(第1号議案) 2019年度事業報告並びに決算報告

# 一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2019（令和1）年度事業報告

自：2019年4月1日

至：2020年3月31日

## 1. 第9回定時会員総会

期日：2019年5月28日（火）

場所：東京理科大学森戸記念館第1フォーラム

議事：

- (1) 2018（平成30）年度事業報告並びに決算報告および剰余金処分（案）ならびに会計監査報告の承認に関する件
- (2) 2019年度事業計画並びに予算（案）の承認に関する件
- (3) 定款改定の件
- (4) 特別講演

「太陽光発電における新しい国際標準化の波－多様性への対応－」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 近藤道雄氏

「再生可能エネルギーと地域の自立」

会津電力（株）佐藤彌右衛門氏

- (5) 表彰 担当：表彰委員会（委員長：秋澤淳）  
次の方々に各学会賞を贈り表彰した。（敬称略）

- 1) 2018年度 功労賞

太和田善久（大阪大学招聘教授／元（株）カネカ）

- 2) 2018年度 学会賞（技術部門）

技術名称「太陽熱・排熱利用暖冷房換気給湯システム（OMX）」OMソーラー株式会社 盧炫佑／相曾一浩

- 3) 2018年度 論文賞

表題「ポリ塩化ビニル製過冷却蓄熱管内の過冷却水の凍結開始に対する電場の効果」掲載号 Vol.44, No.2（244号）藤本雅則，栩谷吉郎（金沢工業大学）

- 3) 2018年度 奨励賞（一般部門）対象者なし

- 4) 2018年度 奨励賞（学生部門）

表題「複数の無線通信基地局におけるPVシステムの統合制御に関する基礎的検討」村上雄基（早稲田大学）

表題「屋外PVモジュール現地診断のためのSTC逆換算法の提案」加藤亮輔（筑波大学）

表題「住宅の断熱性能と明るさ感に関する研究」千葉啓祐（首都大学東京）

表題「既存戸建て住宅の室内温熱環境とリフォームに関する研究－居住者の意識に関するアンケート調査－」坂西未悠（首都大学東京）

表題「高温ハニカムレシーバの連成熱伝達問題におけるセルサイズの影響」中倉満帆（新潟大学）

表題「太陽光発電パネル群が周辺の温熱環境に及ぼす影響のCFD解析」小野寺拓馬（東京大学）

表題「暗状態のI-V特性を用いたセル温度推定方法の提案」舟橋聖人（筑波大学）

表題「Impact Assessment of PV Power Output Forecast Accuracy on Efficient Distributed Generator's Operation of Stand-alone Microgrid」Guowei Chon（名古屋大学）

表題「衛星データを用いた遠隔診断手法の設置情報欠落PVSへの適用検討」川崎航太（筑波大学）

表題「木造戸建住宅における自然エネルギー利用換気システムの外気負荷削減効果と太陽光発電によるエネルギー自立性予測」渡邊拓海（工学院大学）

- 5) 懇親会 参加者：40名

## 2. 理事会

第50回理事会 2019年5月9日（火）

第51回理事会 2019年7月9日（火）

第52回理事会 2019年9月10日（火）

第53回理事会 2019年10月16日（水）

第54回理事会 2020年1月14日（火）

第2回臨時理事会 2020年1月21日（火）

第55回理事会 2020年3月12日（木）

## 3. 各種委員会活動

### 3.1 事業委員会（委員長：木村英樹）

- (1) 「電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会」－エコカー開発を担う人材の増強を目指

すー

開催日：2020年2月22日（東海大学高輪キャンパス）参加者：226名

### 3.2 広報委員会（委員長：加藤和彦）

#### (1)「第13回再生可能エネルギー世界展示会」(協賛)

開催日：2019年7月10日～12日

会場：パシフィコ横浜

アカデミックコーナーに出展し研究発表会や出版物の紹介を行った。

入場者数：11,765名

#### (2) 過去の学会誌の記事や研究発表会の発表論文等を閲覧できるように会員専用HPを準備し、2020年4月1日より会員に公開した。

### 3.3 学会誌編集委員会（委員長：埴 藤徳）

#### (1) 学会誌「Journal of Japan Solar Energy Society (太陽エネルギー)」発刊

Vol.45, No.3 251号 2019年5月 (114頁)

Vol.45, No.4 252号 2019年7月 (116頁)

Vol.45, No.5 253号 2019年9月 (76頁)

Vol.45, No.6 254号 2019年11月 (84頁)

Vol.46, No.1 255号 2020年1月 (94頁)

Vol.46, No.2 256号 2020年3月 (84頁)

以上、通巻251号から256号を発行した。

#### (2) 研究論文・技術論文は5編を掲載した。

#### (3) 研究講演会・セミナーの講演要旨を学会誌特集記事として掲載した。

#### (4) 「学会誌投稿規程」「執筆の手引きとフォーマット」を改定しHPに掲載した。

#### (5) 掲載された論文をJ-STAGE (科学技術振興機構) に登録した。発刊後1年間は会員専用の開示になるが、1年経過後から一般公開する。

### 3.4 出版委員会（委員長：秋澤 淳）

#### (1) 「[[改訂] 新太陽エネルギー利用ハンドブック」は7冊を販売した。

### 3.5 国際交流委員会（委員長：山田 昇）

#### (1) ISES, KSES等との今後の交流について、理事各位の意見を伺い、本会のリソースを鑑み、当面、無理のない範囲で進める方針とした。

### 3.6 研究発表会運営委員会（委員長：盧 炫佑）

#### (1) 2019年度日本太陽エネルギー学会研究発表会を開催した。

開催日：2019年10月16日（水）～18日（金）

会場：リンクステーションホール青森（青森市）

参加登録者数：147名

一般講演論文：84件 ポスター：8件

特別講演Ⅰ「北日本の風力エネルギーについて」

日本風力エネルギー学会 理事／弘前大学地域戦略研究所 教授 本田明弘氏

特別講演Ⅱ「エネルギーを通じて地域を豊かに～NPO法人グリーンエネルギー青森の取組みから～」

特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森 理事長／青森大学社会学部 教授 柏谷至氏

特別講演Ⅲ「縄文時代の北日本の人口変動と社会変化」弘前大学人文社会科学部 教授 関根 達人氏 懇親会（2019年10月17日（木））

リンクステーションホール青森 参加者：62名

見学会（2019年10月16日（水））

青森市清掃工場／三内丸山遺跡 参加者：20名

企業展示はポスターセッションと同じ会場で同時開催した。

#### (2) 2020年度研究発表会開催地

会場：J：COM ホルトホール大分（大分市）

開催日：2020年11月4日（水）～6日（金）

見学会：2020年11月4日（水）

懇親会：2020年11月5日（木）

### 3.7 学会活性化委員会（委員長：若尾真治）

若手研究者の自由な発表の場を提供することを目的として開催した。18名の発表者の中から若手研究発表会奨励賞を以下の4名に授与した。

開催日：2019年8月9日（金）

会場：早稲田大学西早稲田キャンパス

#### (1) 表題「多点基準型線形補間法を用いた太陽電池モジュールの劣化解析」泉洋志郎（東京理科大学）

#### (2) 表題「PVストリングを用いたI-V特性の異常検出法に関する研究」山田智徳（名城大学）

#### (3) 表題「壁面に設置される集光集熱器の設計及び性能評価」Mboup Aissatou（東京農工大学）

#### (4) 表題「PV大量導入時の需要家群におけるV2Hと定置型蓄電池の最適運用」定留正弥（東京理科大学）

### 3.8 学会規程委員会（委員長：光田憲朗）

#### (1) 「理事会運営規程」「委員会規程」「講演料ならびに原稿執筆料規程」「部会運営規程」「就業規則」を見直し改定した。

#### (2) 理事選挙運営規程の廃止、役員選出細則を見直し改定した。

#### (3) 取材規程、広告掲載基準、個人情報保護規程、ホームページリンク基準を見直し改定した。

#### (4) 学会貢献賞を新設し、表彰規程、表彰選考要領を改定した。

### 3.9 表彰委員会（委員長：秋澤 淳）

#### (1) 2019年度の奨励賞を以下の通り選考した。

奨励賞（一般部門）は該当無し。

奨励賞（学生部門）は9名を選考した。（各賞受賞者は別掲）

- (2) 功労賞，論文賞については選考中。
- (3) 学会賞は応募なし。
- (4) 2019年8月9日開催の若手研究発表会において、前述の若手研究発表会奨励賞4名を選考し表彰した。

## 4. 部会活動

### 4.1 太陽熱部会（部会長：山田 昇）

- (1) 第14回再生可能エネルギー世界展示会における太陽熱分野に関する企画運営協力（2019年7月10～12日／パシフィコ横浜）
- (2) 「エコプロダクツ2019」に出展（2019年12月5日～7日／東京ビッグサイト）

### 4.2 太陽光発電部会（部会長：加藤和彦）

- (1) 「JSES 太陽光発電について考える夏合宿2019」開催（2019年8月26～28日／下呂温泉水明館）参加者 94名
- (2) 第28回セミナー「太陽光発電システムの大量導入と太陽光発電量予測技術の課題」（2019年11月20日／東京理科大学 森戸記念館）参加者 92名
- (3) 第29回セミナー「太陽光発電におけるモジュール及びストリングレベル・パワーエレクトロニクス（MLPE／SLPE）の最近の技術動向」（2019年12月19日／東京理科大学 森戸記念館）参加者 37名

### 4.3 光化学・バイオマス部会（部会長：埴 藤徳）

- (1) 光化学・バイオマス部会第10回講演会 バイオマスによる化石資源消費型材料の削減－2050年80% 二酸化炭素削減を目指して－（2019年5月21日／東京理科大学 森戸記念館）参加者 13名
- (2) 光化学・バイオマス部会／太陽光発電部会 合同セミナー「営農型太陽光発電ソーラーシェアリングの最前線」（2019年9月30日／東京理科大学 森戸記念館）参加者 59名
- (3) 【100% RE 部会特設セッション】（光化学・バイオマス部会共催）（2019年10月18日／リンクステーションホール青森）参加者数60名程度

### 4.4 ソーラー建築部会（部会長：太田 勇）

- (1) 住宅における蓄熱技術セミナー（第二回）を2020年3月開催で計画したが、新型コロナウイルス

対応で延期した。

### 4.5 100%再生可能エネルギー部会（部会長：秋澤 淳）

- (1) 100%再生可能エネルギー部会設立会合（2019年6月3日／東京理科大学 森戸記念会館）参加者 35名
- (2) 再生可能エネルギー世界展示会へのポスタ展示（2019年7月11～12日／パシフィコ横浜）
- (3) 研究発表会における【100% RE 部会特設セッション】（2019年10月18日／リンクステーションホール青森）参加者 60名程度

## 5. 関西支部の活動（支部長：光田憲朗）

- (1) 幹事会
  - 第1回幹事会：2019年4月24日
  - 第2回幹事会：2019年7月30日
  - 第3回幹事会：2020年1月8日
- (2) 見学会 スマ・エコ タウン陽だまりの丘／NTN（株）先端技術研究所・グリーンパワーパーク（三重県桑名市）（2019年8月29日）参加者：18名
- (3) 2019年度シンポジウム「再生可能エネルギーとエネルギーマネジメント」（2019年12月9日／大阪市立大学 文化交流センター）参加者：47名
- (4) 第2回研究室探訪（2019年7月16日／奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学領域棟）参加者：11名
- (5) 第3回研究室探訪（兵庫県立大 伊藤研究室）を2020年3月に計画したが、新型コロナウイルス対応で中止した。

## 6. 会員推移

今年度の会員数推移は下記の通りとなった。

- ・当期（2019年度）新入会員
  - 個人会員 31名，学生会員 35名 団体会員 1社
- ・当期末（2020年3月31日）の会員数
  - 終身会員 19名
  - 個人会員 516名
  - 学生会員 33名
  - シニア会員 18名
  - 合計 586名
  - 学校会員 2校
  - 団体会員 36団体

## 2019年（令和1年）度一般会計収支報告

自：2019年4月1日 至：2020年3月31日

### 一般会計

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前年度繰越金	1,825,187	1,825,187
会費	12,962,000	13,250,200
学会誌・書籍	1,627,000	1,375,884
雑収入	130,000	618,819
研究発表会	2,830,000	1,887,460
各種事業・部会等	3,580,000	5,955,878
当期収入	21,129,000	23,088,241
合計	22,954,187	24,913,428

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算	実績
会議費	640,000	553,991
学会誌他印刷費	6,038,000	5,222,652
賛助会費	123,500	123,500
研究発表会	1,450,000	1,141,634
見学会・講演会	1,330,000	4,251,839
維持経費	3,395,540	4,012,051
人件費	7,305,000	6,244,887
法人税	70,000	70,000
税理事務所報酬	518,400	523,200
当年度支出計	20,870,440	22,143,754

### 特別会計（出版事業）

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前年度繰越金	59,912	59,912
書籍売上	300,000	252,685
合計	328,351	480,831

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算	実績
販売経費（パンフ・送料等）	60,000	5,323
期首棚卸し資産		1,667,470
期末棚卸し資産		1,470,320
合計	60,000	202,473
次年度繰越金		110,124

### 貸借対照表（2020年3月31日）

(単位：円)

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	26,368	未払い金	47,087
普通預金	11,846,407	前受け金	4,076,646
定期預金	12,221,386	預かり金	283,370
2. 出版物棚卸し資産	1,470,320	負債の部合計	4,407,103
3. 立替金	38,740	III. 純資産の部	
4. 前払い費用	179,880	1. 別途積立金	18,900,000
5. 未収入金	403,800	2. 繰越利益剰余金	
		前期繰越利益	1,885,099
		当期利益	994,699
		次年度繰越金	2,879,798
合計	26,186,901	合計	26,186,901

## 損益計算書

自：2019年4月1日 至：2020年3月31日

### 収入の部

(単位：円)

項 目	非収益事業	収益事業	合 計	備 考
1. 会費収入	13,250,200		13,250,200	
2. 事業収入	8,306,883	1,783,843	10,090,726	
学会誌		1,375,884	1,375,884	定期購読・論文掲載・広告
書籍		267,845	267,845	
各種部会講演会・見学会	5,186,650		5,186,650	含関西支部
ソーラーカー講習会	754,068		754,068	
研究発表会登録費等	1,147,000		1,147,000	
見学会・懇親会等	334,060		334,060	
論文集売上げ・広告		106,400	106,400	
助成金	300,000		300,000	
雑収入・その他	86,636		86,636	
著作権料		33,637	33,637	
特別会計収入（表彰資金）	0		0	
受取利息	873	77	950	
前期損益修正益	497,596		497,596	関西支部繰越し金
合 計	21,557,083	1,783,843	23,340,926	

### 支出の部

管理費は非収益事業と収益事業収入から按分した

項 目	非収益事業	収益事業	合 計	備 考
1. 事業支出	5,524,902	8,121	5,533,023	
諸会費（交付金・協賛金）	123,500		123,500	ソ振協
雑費	16,050		16,050	ニコス事務手数料
部会支出	4,009,181		4,009,181	含関西支部
ソーラーカー製作講習会	242,658		242,658	
研究発表会開催費	658,008		658,008	
研究発表会見学会等	339,566		339,566	
論文集 CDROM 製作費	135,939	8,121	144,060	
2. 管理費	15,249,365	1,493,839	16,743,204	
職員給与	5,205,647	457,296	5,662,943	
福利厚生費・法定福利費	97,698	8,584	106,282	職員業務災害補償保険加入
広告費（ホームページ）	178,676	15,697	194,373	
会議費（総会・理事会）	358,233		358,233	
会議費（その他）	35,212	3,094	38,306	
旅費交通費	515,878	45,318	561,196	
通信費	345,505	30,352	375,857	電話料・郵送料等
消耗品・雑費	741,361	65,127	806,488	
水道光熱費	99,742	8,762	108,504	
賃借料	1,434,026	125,974	1,560,000	
リース料	617,076	54,208	671,284	
学会誌制作費	4,800,909	421,743	5,222,652	原稿料・封筒代含む
書籍印刷・発送費		215,434	215,434	
支払い報酬（会計事務所）	480,950	42,250	523,200	
学会賞	157,452		157,452	
貸倒損失	181,000		181,000	会費回収不能額
合 計	20,774,267	1,501,960	22,276,227	
税引前当期損益	157,983	59,404	217,387	
法人税・住民税・事業税		70,000	70,000	2019年度事業税
当期純損益	782,816	211,883	994,699	

会計監査報告

## 2019年(令和1年)度会計監査報告書

一般社団法人日本太陽エネルギー学会

会長 須永 修通 殿

一般社団法人日本太陽エネルギー学会2019年(令和1年)度(2019年4月1日より2020年3月31日)の決算について一般社団法人日本太陽エネルギー学会定款第37条に基づき、決算書、帳簿、伝票、証憑書類を監査した結果、適正に処理、記載されていることを確認した。

2020年5月7日

監事 相曾一浩 印

監事 夏目貴史 印

(第2号議案) 2020年度事業計画

## 一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2020年(令和2年)年度事業計画

自：2020年4月1日

至：2021年3月31日

### 1. 第10回定時社員総会

期日：2020年5月26日(火)

会場：東京都立大学秋葉原サテライトキャンパス  
新型コロナウイルス感染防止策として議長・議事録署名・監事・事務局の7名での開催とし、社員は委任状での参加とする。特別講演会・表彰式・懇親会は中止する。

議事

- (1) 2019(令和1)年度事業報告並びに決算報告および剰余金処分ならびに会計監査報告の承認に関する件
- (2) 2020年度事業計画並びに予算案の承認に関する件
- (3) 法人第6期役員選出の件
- (4) 2019年度学会各賞選考結果報告
- (5) 特別講演「再生可能エネルギーと建築デザインの融合～欧州のZEB/ZEH化とBIPVの最新事例・最新動向～」カモイケデザインラボ 矢野一志氏を予定していたが、中止とする。講演内容は学会誌の特集記事として掲載する。

### 2. 理事会

6回/年 開催し、遅滞なく業務を執行する。

### 3. 各種委員会

#### 3.1 事業委員会

- (1) ソーラーカー製作講習会は東日本地区で開催を企画する。

#### 3.2 広報委員会

- (1) 「第15回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム」(開催日未定)、開催された場合にアカデミックコーナーに本会ブースを設け本会の活動内容をPRする。
- (2) ホームページを改善し会員向けサービスの充実ならびに非会委員向けに学会活動のPRを図る。

#### 3.3 学会誌編集委員会

- (1) 学会誌「Journal of Japan Solar Energy Society」をVol.46, No.3(通巻257号)～Vol.47, No.2(通巻262号)までの6回発行する。各号特集記事の充実を図る。
- (2) 太陽エネルギー利用に関連する教育講座や国際会議報告、研究室紹介等を掲載し、幅広い会員に親しめる学会誌編集を行う。
- (3) 論文投稿を促進するため、特集記事と関連した論文の投稿を検討する。

#### 3.4 出版委員会

「新太陽エネルギー利用ハンドブック」の完売に向けて拡販を図る。

### 3.5 国際交流委員会

ISES, KSES, 中国再生可能エネルギー学会 (CRES) 等との相互交流の具体策 (Web 会議システムによる Virtual な交流の可能性など) を検討する。

### 3.6 研究発表会運営委員会

- (1) 2020 年度 JSES 研究発表会を「J: COM ホルトホール大分」(大分市)において2020年11月4日(水)～6日(金)に開催する。
- (2) ポスターセッションを設け聴講の機会を増やす。
- (3) 特定テーマの特設セッションを設け新技術について公開討論を行う。
- (4) 昨年同様論文集はCD-ROM 配布とするが、進行表とプログラムは紙媒体での配布を実施する。
- (5) 見学会は2020年11月4日(水)に開催する。

### 3.7 学会活性化委員会

昨年同様に2020年6月26日に、若手研究者とベテラン研究者との有益なディスカッションを期待してJSES・若手研究発表会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止する。

### 3.8 学会規程委員会

各種規程の整備, 見直し, 改定を推進する。

### 3.9 表彰委員会

「論文賞」(押田賞を含む), 「奨励賞」, 「功労賞」, 「学会賞(学術部門)」, 「学会賞(技術部門)」, 「学会貢献賞」, 「社会貢献賞」の受賞者を選考し, 研究開発ならびにその実用化促進に関する優れた業績を顕彰する。

なお, 「奨励賞」については研究発表会において予備審査を行う。

## 4. 各種部会

会員相互交流の他, 新規会員の拡充を図るため, 各部会において勉強会, セミナー, 講演会等を企画運営する。

### 4.1 太陽熱部会 (部会長: 盧 炫佑)

- (1) 太陽熱利用および関連技術に関するセミナー, 講習会, 講演会の企画
- (2) 「第15回再生可能エネルギー世界展示会」(開催日未定)への企画運営に協力する。
- (3) 「エコプロ2020」出展(2020年11月26～28日/東京ビッグサイト)

- (4) 太陽熱利用技術に関する教材やウェブコンテンツの制作

### 4.2 太陽光発電部会 (部会長: 加藤和彦)

- (1) 第30回セミナー「太陽光発電設備の廃棄およびリサイクルに関する最新動向」

### 4.3 光化学・バイオマス部会 (部会長: 埜 藤徳)

- (1) 見学会「住友林業筑波研究所の新研究棟」/100% RE 部会, 建築部会と共催
- (2) 第12回講演会「地域資源としてのバイオマスエネルギー利活用の展望」(100% RE 部会との共催も検討)

### 4.4 ソーラー建築部会 (部会長: 太田 勇)

- (1) 住宅における蓄熱技術セミナー(第2回)(秋開催予定)
- (2) 講習会を通じた「パッシブデザインエンジニア」(仮称)制度の検討
- (3) サステナブル建築見学会の開催

### 4.5 100%再生可能エネルギー部会 (部会長: 秋澤 淳)

- (1) 研究発表会におけるオーガナイズドセッションの企画(2020年11月5～6日/大分市)
- (2) 見学会(100% REに関連する施設等の見学会)11月予定)
- (3) 地域において再生可能エネルギーを取り入れる主体となっている事業者, 自治体による実践的な活動事例を中心とした講演会の開催(2021年2月)

## 5. 関西支部の行事

見学会, シンポジウム等を開催し関西地区会員の啓発活動を行う。

- (1) 見学会(2020年9月実施予定)
- (2) シンポジウム(2020年11月開催予定)
- (3) 第3回～4回研究室探訪(2020年10月, 2021年3月実施予定)
- (4) 幹事会3回/年を実施する。

## 6. 会員増加と財務基盤強化

事業委員会ならびに各種委員会・各種部会を通じ個人会員, 団体会員の増加を図る他, 講演会やセミナー等の事業を強化する。また学会誌や研究発表会予稿集, 学会誌広告掲載を増強して経営の安定化ならびに財務基盤の強化を図る。



## 2020年（令和2年）度収支予算計画

自：2020年4月1日 至：2021年3月31日

### 一般会計

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算
前期繰越金	2,769,674
会費	12,138,000
学会誌	1,610,000
研究発表会	2,430,000
各種事業・講演会	2,000,000
雑収入	35,000
当年度収入計	18,213,000
合計	20,982,674

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算
会議費	460,000
学会誌	4,110,000
賛助会費	123,500
研究発表会	1,150,000
各種事業・講演会	985,000
維持経費	3,812,222
人件費	6,585,000
事業税等	70,000
税理事務所報酬	518,400
当期支出計	17,814,122
次年度繰越金	3,168,552
合計	20,982,674
正味財産増減額	398,878

### 特別会計

#### 1. 出版事業

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算
前年度繰越金	110,124
書籍売上	150,000
合計	260,124

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算
販売経費	60,000
期首棚卸し資産	1,470,320
期末棚卸し資産	※ 872,070
合計	658,250
次年度繰越金	▲ 398,126

※ HB 第V編 70部の減損処理

### 関西支部 2018(平成30)年度収支報告

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前期繰越金	456,734	456,734
交付金	250,000	250,000
見学会参加費	100,000	83,000
シンポジウム参加費	100,000	81,000
その他(利子)	0	4
合計	906,734	870,738

### 関西支部 2019(令和元)年度収支予算計画

#### 収入の部 (単位：円)

科目	実績
前期繰越金	497,596
交付金	250,000
見学会参加費	100,000
シンポジウム参加費	100,000
その他(利子)	0
合計	947,596

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算	実績
幹事会会議費(3回分)	180,000	139,710
見学会経費	200,000	156,932
シンポジウム経費	150,000	56,500
研究室探訪(1回)	0	20,000
合計	530,000	373,142
次期繰越金	376,734	497,596

#### 支出の部 (単位：円)

科目	実績
幹事会会議費(3回分)	150,000
見学会経費	200,000
シンポジウム経費	100,000
研究室探訪(3回)	60,000
合計	510,000
次期繰越金	437,596

(第4号議案\_報告事項) 功労賞・学会各賞の贈呈

2019年(令和1年)度功労賞・学会各賞 受賞者(敬称略)

1. 2019年度 功労賞

金子正夫(株式会社バイオフォトケモニクス研究所)

大野二郎(太陽エネルギーデザイン研究会)

2. 2019年度 論文賞

論文標題「部分陰によりホットスポットが発生したPVセルの温度分布を予測する連成モデル」

掲載号 Vol.45, No.3 (251号)

山本稜之, 南野郁夫(宇部工業高等専門学校)

3. 2019年度 押田賞

論文標題「壁面設置型集熱器に向けた放物面鏡を用いた太陽集光系の設計」

掲載号 Vol.44, No.2 (244号)

秋澤 淳(東京農工大学)

4. 2019年度 奨励賞

【一般部門】 対象者なし

【学生部門】

論文 No.3 EL画像を用いたPIDモジュールの出力推定に関する研究 澤田 賢(名城大学)

論文 No.15 太陽光発電の出力変動解析と短期出力予測の必要性の検討 小林宏規(豊橋技術科学大学)

論文 No.16 地上日射計測を用いた雲影挙動把握方法における雲影到来時の日射強度変化  
竹内悠人(豊橋技術科学大学)

論文 No.35 卒FIT後の既設PVシステムへの蓄電池設置に関する経済性の検証 石川 廉(静岡大学)

論文 No.42 赤外線カメラによる太陽電池モジュールのバイパス回路の開放故障検出技術  
- 方形波電流による部分開放故障検出技術について - 黒田拓希(日本大学)

論文 No.55 三角カットSi太陽電池セルの3次元曲面对応性検討 早川佳孝(長岡技術科学大学)

論文 No.75 夏季の気候特性や熱的履歴が想像温度に与える影響  
~札幌・福山・熊本における被験者実験~ 原 大介(札幌市立大学)

論文 No.76 居住者の温熱感覚と熱中症危険度の認識に関する実態調査  
- 夏季における北海道と新潟を対象として - 田中佑一郎(首都大学東京)

論文 No.P5 電磁リレーを使用したラピッドシャットダウンシステムの提案  
中本健太(宇部工業高等専門学校)

5. 2019年度 若手研究発表会奨励賞

・多点基準型線形補間法を用いた太陽電池モジュールの劣化解析 泉洋志郎(東京理科大学)

・PVストリングを用いたI-V特性の異常検出法に関する研究 山田智徳(名城大学)

・壁面に設置される集光集熱器の設計及び性能評価 Mboup Aissatou(東京農工大学)

・PV大量導入時の需要家群におけるV2Hと定置型蓄電池の最適運用 定留正弥(東京理科大学)